

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂農林高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月26日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 加茂農林高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	山田 和浩	岐阜県農業大学校長
副会長	生駒 一成	岐阜県指導農業士(欠席)
委員	長谷川洋昭	ボランティア団体部会長
	渡辺 祥二	農業法人代表
	酒向 光世	医療法人管理職(欠席)
	武田 由美	美濃加茂市教育委員
	井戸 肇	同窓会長
	高木 史恵	PTA会長
学校側	大塚 浩昭	校長
	佐藤 知子	事務部長
	金本 淳	教頭
	斉藤 寧子	教務主任
	村井 陽一	生徒指導主事
	森本 達雄	進路指導主事
	佐藤 一喜	農場長

5 会議の概要(協議事項)

- ・学校長挨拶
- (1) 各分掌の反省と次年度の取組について
 - ・学校運営について
 - ・教務部について
 - ・生徒指導部について
 - ・進路指導部について
 - ・農場部について

意見1: 携帯電話・スマートフォンの使用について、授業中に使用しても良いのか。
⇒授業中は鞆にしまっておくことになっている。携帯電話・スマートフォンについては使い方の指導、マナー指導を行っている。

意見2: 生徒指導について「指導」と「支援」の区別はどのようになっているのか。
⇒現在、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。生徒指導部が担当する業務も問題を起こした際の「指導」ではなく、よりよく学校生活を送るための「支援」が多くを占めている。生徒に寄り添う相談的な支援が多くなっており、「生徒指導

部」という名称についても実態に即して「生徒支援部」に変更することも視野に入れている。

- 意見3：小・中学校においても心理的に不安定になる子どもや、不登校になる子どもが増えている。「支援」という言葉に変わるだけでも生徒が抱くイメージが変わる。
- 意見4：生徒の育成は家庭の責任で行わなければならないこともあると思うが、学校として家庭内の問題にまで支援を行うことがあるのか。
⇒家庭との連携を意識して支援を行っている。実際に家庭内の問題で悩みを抱える生徒もいる。スクールカウンセラー、スクール相談員とも連携して生徒に寄り添いながら話を聞き、解決に向けて、まず生徒が心を整理することができるように支援している。
- 意見5：学校が示した「課題と重点（年度末反省）」について、「評価」の「A・B・C・D」の意味は何か。
⇒「A：十分達成した」「B：おおむね達成した」「C：やや不十分」「D：不十分」を基準にしている。
- 意見6：現在の3年生はまさにコロナ禍により、以前のような学校生活を送ることができなかった。私たちが行っている地域におけるボランティア活動についても、高齢者を中心に集団での活動に消極的になり、活動が低調になってしまった。地域も学校も結びつきが大切である。コロナ禍においても何かできることはあるはず。新しいやり方を模索することが大切である。
- 意見7：生徒の半数以上が大学や専門学校などへ進学している。普通科の学校とはカリキュラムも学びの内容も異なるが、入試のあり方も変化しており、農業高校らしい進学指導の体制を構築してほしい。また、地域活動への参加だけでなく、普通科高校との連携も生徒には刺激があるのではないか。今後も学びの場の提供をサポートしたい。
- 意見8：本年度から1年生において学習成果の発表を行うということだが、視野を広げ、自らの考えを深化する機会として大切である。
- 意見9：学習成果の発表の場を1年生から作ることで、生徒は悩みながら、繰り返すうちにたくましくなり、成長につながる。
- 意見10：先生方には心の通う良い指導をしていただいている。生徒は人との接し方、心の通わせ方を学んでいる。人によって進路は異なるが、人が生きる基礎を作っていただきたい。生涯の糧になる。
- 意見11：提示された課題と重点はしっかりと学校の現状をとらえたものであり、しっかり自己評価がなされている。
- 意見12：今後、新型コロナウイルス感染症に関わる様々な制限が緩和に向かうなかで、農業高校ならではの外部との交流を進めてほしい。

6 会議のまとめ

- ・昨年度まではほぼ書面での開催であったが、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、年間3回の本協議会を対面で開催できた。次年度も委員が本校で学ぶ生徒の姿を見られる機会を設定し、本校の教育活動について助言を得る機会とする。
- ・コロナ禍における本校の試行錯誤の取組について、ご意見やご指摘など、多くの前向きな意見が得られた。委員からの助言や提言を受け、生徒が安心安全に生活できる学校運営のあり方を模索し、改善する。
- ・今後も生徒が主体的に活躍できる場を増やし、充実した学校生活を送れるよう支援する。
- ・委員・保護者はもとより広く地域住民に対し、「開かれた学校」として学校や生徒の姿を示し、農業高校としての特徴を生かした教育を推進する。